

例 言

1. 本書は、令和3～4年度大阪大谷大学特別研究費の助成による研究成果である。研究課題と研究組織は以下のとおりである。

研究課題：美術史学および考古学による「空間」分析の高次化および再構築

研究組織：今井澄子（研究代表者）、犬木 努・苫名 悠（研究分担者）

2. 各論考は、大阪大谷大学歴史文化学科が開催した以下の公開講座の内容も踏まえている。

- 1) 「聖なるもののイメージ」（於大阪大谷大学、平成28年10月29日）

〈報告者・報告題目〉

- ・犬木 努「埴輪の論理と構造」
- ・田中 健一「仏像への聖性付与」
- ・今井 澄子「西洋における聖母マリアのイメージ」

- 2) 「「空間」を読み解くー考古学と美術史学の視点からー」

（於大阪大谷大学、令和元年10月26日）

〈報告者・報告題目〉

- ・犬木 努「古墳群の空間分析ー古墳の設計と配置の論理ー」
- ・田中 健一「霊鷲山を表象する空間」
- ・苫名 悠「《彦火々出見尊絵巻》における空間の見立てをめぐって」

3. 1および2の成果に加え、関連する内容について、藤澤典彦氏にご寄稿いただいた。

4. 本書の編集は、犬木 努・今井澄子が担当した。